

逆説安全工学

— メカの追求だけで安全は得られるのだろうか —

交通事故は、交通施設に対して投資することによって減少すると言われている。そして実際、交通事故死は年々減少してきた。ところが近年それが一転して増加傾向にあるという。物量面ではどうしても解決できない要因が最後に残ったという感じがする。ではその要因とはいったい何だろうか。

ブレーキの効かぬ車を作れ 僕が自動車の運転を習った頃は、戦前の車の残党がまだ生き残っていた。その車たちのほとんどは、なんらかの理由でブレーキの効きが甘く、特にメカニカルブレーキの車などは、力いっぱいブレーキペダルを踏まないで停止してくれなかった。ブレーキが片効きしてハンドルを取られるなんて車もザラであった。こういう車たちを相手に育った僕たちにとっては、制動距離ということをつねに念頭におく必要があった。急ブレーキが効かずとも、どんな状況でも衝突せずに停車できるためには、余裕を十分に取ること、前方の流れの変化を適確に読み取ることが絶対的に要求されたのである。

それから幾星霜を経た現在。クルマの原理はまったく変わらないのだが、性能面では飛躍的な進歩をとげた。サラリーマンに手のとどく安車でも、アクセルをちょっと踏み込めば驚くほど加速する。おまけに道路の整備もいちじるしく良くなり高速化に拍車がかかった。それにつられてブレーキの効きも良く、タイヤの保持力も大きくなった。

いまの運転者はクルマの性能と自身の能力に何の疑問ももたないかのように見受けられて仕方がない。ブレーキペダルを踏みさえすれば、いかなる状況のもとでもピタリと停車できるという仮定で運転しているとしか思えないのだ。先行車の後を、鼻づらをくつつけんばかりに突込んでゆく愚か者があまりにも多い。こういう手合いが何人かつながれば、流れがちょっと乱れるだけで多重衝突は必至だ。

自動車メーカーですら、ブレーキは車を停める役目をするのでないことをどのくらい意識しているのかまったく疑がわしい。ブレーキの効く車が増えたおかげで、多重衝突がめっきり増えた。

横転しやすい車を作れ 僕が最初にもったクルマは、旧年式のフォルクスワーゲンのかぶと虫だった。むかしのかぶと虫は、後車軸がスイングアクスルである影響でオーバーステアになりやすく、高速で急ハンドルを切ると簡単に横転した。いきおい、カーブに入るときは手前でスピードを落として慎重に抜けざるを得ない。いまのクルマは旋回性能が良くなり、コーナリングが良いとメーカーがやたらにあおり立てるおかげで、カーブの手前で減速する運転者が少なくなり、カーブの走行がものすごく危険になった。

制御する者の性能は上がっていない 自動車の性能が良くなったほどには、自動車を運転する運転者の性能は上がっていない。それどころか、誰でも簡単に免許が取れるから、運転者の性能は平均すると下がっているくらいだ。誰でも簡単に乗れると宣伝された軽量バイクの事故が増しているのを見てもわかる。

人間とは不注意によるミスをどうしても避けることのできない機械である。道路交通の恐ろしさは、個々の車の制御が独立した人間に完全に任されているところにある。そして車の危険度は、その性能のほぼ2乗に比例して増大していると言うことができよう。車を制御する人間は、いちおう交通法規というルールにしたがってはいるが、交通法規は完全な制御の機能を意味するものでは当然あり得ない。

自動車メーカーは、道路交通システムが今言った意味でいかに恐ろしいものであるかを、もっとユーザーに認識させる責任があると僕は考える。いまの自動車メーカーは、運転者の性能にくらべて性能の良すぎる車を作りすぎ、それがまかり間違えば凶器となることを一言も断わってくれない。道路交通システムに対する責任をすべて警視庁になすりつけて知らぬ顔をしている。

運転者のほうは、警視庁は罰金を取る悪魔ぐらいに考えているから、テンから言うことを聞こうとしない。原子力発電所の建設にあれば熱心に反対する人たちが、毎年確実に何千人という事故死者を出している道路交通システムの安全性にほとんど無関心である。人間とは何とも不条理な動物であると思いませんか。 E. O.